

津軽海峡フェリーの紹介

フェリーに乗船したことがないという人のために、ここでは津軽海峡フェリー「びるご」の船内設備をご紹介！長い船旅でも快適に過ごせるように、フェリーの船内にはホテル顔負けのさまざまな施設が完備されているのだ。

TOPICS 7.17デビュー！ブルードルフィン



7月17日から函館～青森航路に導入される「ブルードルフィン」は、日本初の船上ドックバルコニーを完備しているのが最大の特徴。ドッグルームも用意されているので、愛犬家にはピッタリだ。そのほかにも、赤ちゃんルームや、ジャグジー&ミニパーカウンター付きの豪華な個室など、幅広い層の乗客が快適な船旅を楽しめる設備が備えられている。



船内には案内所のほかに、お菓子やアイス、カップラーメン、お土産などを販売するショップも完備されている。

ジュースやピールのほか、カップラーメンの自動販売機も完備。のどが渇いたり小腹が減った時に気軽に利用できる。

もっとも運賃が安い、じゅうたん敷きの大部屋。空いている時期なら広く使えるので、グループでの船旅にも最適だ。手荷物棚、枕、毛布(有料貸出)も用意されている。

2段ベッドを2つ完備した個室。テレビや洗面台のほか、浴衣、フェイスタオルも用意されており、小さな子供連れの家族でも安心して快適に過ごすことができる。

ユニットバス、トイレ、洗面台、テレビ、タオル類、茶器セット、歯ブラシ、シャンプー、リンスなどをすべて完備した、ホテル顔負けの豪華な個室。

青森～函館航路時刻表【～2010年6月30日】

便	青森発	函館着	便	函館発	青森着
3	02:00	06:20	4	03:00	06:40
5	05:25	09:15	6	05:50	09:40
9	09:00	12:40	14	12:00	15:40
11	10:55	14:45	16	14:00	17:50
17	17:00	20:40	18	17:30	21:10
19	18:45	22:35	20	19:00	22:50
23	22:15	翌01:55	24	21:50	翌01:30
25	23:50	翌03:40	26	23:45	翌03:35

7/1以降の時刻表はHPで確認するが、各乗船港へお問い合わせください。

青森～函館航路運賃表(税込)

くるま旅の場合、フェリーの運賃は車両運賃と旅客運賃の合計金額となる。車両運賃にはドライバー1名分の2等運賃が含まれており、1等や特等を利用する場合はその差額が必要となる。往復割引などの割引制度も大いに活用しよう！

【車両運賃】

車長	運賃
軽自動車	16,000
6m未満	20,000

【旅客運賃】

大人(1)	特等	6,000
	1等	5,000
	2等	2,700
小児(2)	特等	3,000
	1等	2,500
学生	2等	1,350
	特等	2,430
ドライバー差額	特等	3,300
	1等	2,300

1 大人：12才以上
2 小児：小学校に就学している小児。大人1名に同伴される6歳未満の幼児は1名のみ無料(指定席・寝台を利用する際は小児運賃を適用)。1歳未満の乳児は無料。

津軽海峡フェリーに乗って北海道に行こう！



そろそろ夏の北海道行きフェリーの予約合戦がスタートする時期。クルマと一緒に北海道に渡るキャンピングカーユーザーは、「どの航路を選ぶか」で頭を悩ませているのでは？ そんな読者のために、ここでは「津軽海峡フェリー」で行く北海道の旅を紹介しちゃいます！

撮影協力 / 津軽海峡フェリー
TEL:0138-43-4545 (函館) TEL:017-766-4733 (青森)
http://www.tsugarukaikyo.co.jp
PHOTO & REPORT / 岩田一成

青森～函館航路のメリットとは？



交通費を節約するなら青森港を目指せ！

北海道のくるま旅でもっとも費用がかさむのが、自宅と北海道を往復するための交通費だ。現在適用されている1000円上限のETC休日割引が廃止されても、6月から高速道路の新たな割引制度が導入されれば、長距離ドライブの大きな味方となってくれることは変わらない。フェリー運賃は北海道に近い港ほど安くなるので、割安な青森～函館航路を使えば、青森港までの高速代、ガソリン代をプラスしても、北海道までの交通費をトータルで節約することができるのだ。「できるだけ安く北海道に渡りたい」なら、まずは青森港を目指すべし！

北海道キャンピング&くるま旅は、キャンピングカー乗りにとって永遠のあこがれ。しかし、北海道にクルマと共に渡るには、どうしてもフェリーに乗船する必要がある。現在、本州から北海道に渡るには、青森、大間、仙台、名古屋、新潟、舞鶴、秋田、敦賀、大洗といった各港から各社のフェリーが就航しているが、航路が長距離になれば港までのアクセスが楽な分、当然ながら運賃は跳ね上がる……。長期のくるま旅ともなれば、車中泊とはいえ旅の費用はかさむ。そんな状況下で、もっとも費用がかかる往復のフェリー運賃は、北海道くるま旅の死活問題といっても過言ではない。運賃の高い大型キャンピングカー

ならなおさらだ。「できる限り安く北海道に渡りたい」と、誰もが一度は考えられると思うが、以前と比べて高速道路の長距離料金が増えたこと、割安な青森～函館航路で北海道に渡ることをお勧めしたい。費用的に安く上がるのはもちろん、青森周辺の観光をプランに加えて、青森までの道のりを単なる移動ではなく「旅」にしてしまえば、北海道くるま旅にさらなる楽しみがプラスされるはず。そこで、ここでは青森～函館航路を就航する「津軽海峡フェリー」の概要から青森、函館周辺のお勧めスポットまでを完全網羅で紹介。「北海道を旅してみたい」と思っている読者は、ぜひ参考にしてほしい。

八甲田ロープウェー

観光 2日目

(DATA)
青森県青森市荒川寒水沢1-12
TEL : 017-738-0343
http://www.hakkoda-ropeway.jp



山頂公園駅にて。残念ながら、我が家が訪れた日は霧と寒さで景色どころではなかった……。



山頂公園駅から北八甲田連峰の山々を眺められるほか、自然遊歩道を利用して高層湿原と高山植物ウォッチングも手軽に楽しめる。約350台収容の無料駐車場完備。

道の駅ゆ～さ・浅虫

(DATA)
青森県青森市浅虫字蛸谷341-19
TEL : 017-737-5151
http://www.yu-sa.jp



建物内のレストランでは新鮮な海鮮を使った食事が味わえる。写真はホタテフライ定食(1500円)



食事 入浴 休憩 2日目

展望温泉浴場「はだか湯」(大人350円、小学生150円、2～6歳60円)を完備した、浅虫温泉にある道の駅。駐車場がA～Eまで5か所に分散しているが、仮眠や休憩には一番広い駐車場Dがオススメ。2日目の夜は、ここで仮眠をとらせてもらった。



観光 2日目

ねぶた囃子の生演奏をバックに、ねぶたを動かす「曳き手」や踊り手「跳人(ハネト)」の体験ができる。



祭り装束に身を包んだ跳人のお姉さんと一緒に記念撮影!

ねぶたの里

園内のねぶた会館には、青森ねぶた、弘前ねぶたなどを合わせた数十台のねぶたを展示。祭りをそのまま再現した「ねぶた運行体験ショー」では、手軽にねぶた祭りの雰囲気を楽しむことができる。入園料金は、高校生以上630円、中学生420円、小学生210円。

(DATA)
青森県青森市大字横内字八重葎1
TEL : 017-738-1230
http://www.nebutanosato.co.jp

300年も昔から開かれていた山の温泉宿で、日帰り入浴も可能。大型車OKの広い駐車場が完備されているので、160畳の広さを誇る総ヒバ造りの大浴場「ヒバ千人風呂(混浴)」にぜひ浸かってみよう。

(DATA)
青森県青森市荒川南荒川山園有林酸湯沢50
TEL : 017-738-6400
http://www.sukayu.jp



温泉 2日目

酸ヶ湯温泉

3日目 【愛車と共にフェリーに乗船!】

あこがれの北海道へ

個室で快適な船旅をエンジョイ!

小さな子供連れの場合、やっぱり個室が快適。窓から眺める大海原に子供たちも大喜び!



2段ベッドがあるのでゆとりがたっぷり。故防止のため、小さな子供は下段のベッドに寝かせるようにしよう!

航海中は、デッキに出て潮風にあたりながら海を眺めてみよう。運が良ければイルカを見られることもあるんだぞ!

いよいよ乗船!

乗船案内があったら係員の指示に従って船内に移動して、指示された位置にクルマを駐車する。



個室を予約している場合は、インフォメーションカウンターで鍵を受け取って船室へ。あとは快適な船旅を楽しむだけ!

乗船手続き

予約番号と車検証を持って、発券カウンターで乗船手続きを済ませる。予約と支払いが済んでいる場合は、スマートチェックインゲートでクルマに乗ったまま乗船手続きをするのも可能だ。



ターミナル1階のショップではお弁当、パン、飲み物、菓子類、お土産などを販売している。2階には食堂もあるので、出発前の腹ごしらえも可。

青森の観光を終えたら、いよいよフェリーに乗船して北海道へと向かう。ここでは青森港でフェリーに乗船するまでの流れと、フェリー内部の様子を紹介するぞ!



青森ターミナル

いよいよ青森港に到着。津軽海峡フェリーのターミナルは、青森港フェリーターミナルの入り口から入って左奥にあるので間違えないように!

実践レポート! 津軽海峡フェリーで行く青森・北海道の旅

本誌ライターの岩田が、家族と一緒に「津軽海峡フェリーで行く青森・北海道の旅」を実践レポート! まずは、東京から青森までを高速道路で自走するが、せっかくなので青森港でフェリーに乗船する前に、青森周辺の観光を楽しむことにした。

1日目は東京を夕方に出発して、深夜に青森の高速SAで仮眠。2日目は、十和田ICで降りて、十和田湖、奥入瀬溪流、酸ヶ湯温泉、八甲田山などをノンビリ観光しながら、青森港方面へと北上して、道の駅「ゆ～さ浅虫」にて食事、入浴、仮眠。そして、3日目の午前中に青森港から津軽海峡フェリーに乗って、北海道へと向かった。

たった1日青森観光に時間を割くだけで、北海道の旅はさらに魅力あるものへと変貌する。青森へ函館航路を利用するのなら、ぜひ青森観光も楽しもう!



北海道への移住を真剣に考えたこともあるほどの、大の北海道好きファミリー。毎年夏には、愛車コンパスに乗って家族で北海道に渡り、2～3週間かけて道内のキャンプ場をめぐりながら旅をしている。

ライター 岩田フアミリー

【まずは青森観光からスタート!】

2日目



詩人・彫刻家である高村光太郎作の「乙女の像」は、十和田湖のシンボリック的存在だ。



1日目



1日目

青森までひたすら自走!

夜の東北道をひた走って、一路青森を目指す。東京から青森までは約7時間のドライブになるので、くれぐれも安全運転で。深夜、高速のSAにて仮眠をとる。

十和田湖 観光 2日目

十和田ICを降りてまず向かったのが、ここ十和田湖。北海道にも引けを取らない雄大な景色を堪能できる、青森屈指の観光スポットだ。湖畔の遊歩道をノンビリと散歩しながら、自然の息吹を感じよう!

(DATA)
青森県十和田市奥瀬十和田湖畔休屋

奥入瀬溪流 観光 2日目

遊歩道はしっかり整備されており、小さな子供連れでも安心して散歩することができる。



十和田湖から流れ出る奥入瀬溪流は、子ノ口から約14kmに及ぶ遊歩道が設けられており、苔むした岩を洗う奔流や滝を眺めながら散歩を楽しむことができる。写真の銚子大滝のすぐ近くに駐車スペースがあるので、クルマを降りて周辺を散歩してみよう。

(DATA)
青森県十和田市奥瀬



銚子大滝の駐車スペースのすぐ脇にある「寒沢の流れ」。





グルメ

バイキングレストラン ファイブスター函館店

(DATA)
北海道函館市本通4-14-13
TEL : 0138-33-0001
http://www.five-star.co.jp

バスコンもOKの広い駐車場を完備した、道内最大級のバイキングレストラン。店内は高級ホテルレストランの雰囲気、和・洋・中・韓・焼肉・スイーツなど200品以上のメニューが食べ放題。海鮮に飽きたらぜひ行ってみよう！



キャンプ場

湯ノ沢水辺公園 キャンプ場

(DATA)
北海道北斗市茂辺地市ノ渡462-1
TEL : 0138-73-3111
(北斗市都市住宅課公園緑地係)

茂辺地川中流にある無料のオートキャンプ場。きれいな芝生に区画化されたオートキャンプサイトが整備され、炊事場、トイレ、ゴミ箱なども完備されている。サイトには傾斜もなく、快適度は最高レベル！



グルメ

ハセガワストア 西桔梗店

(DATA)
北海道函館市西桔梗町850-35
TEL : 0138-49-0024
http://www.hasesuto.co.jp

函館名物のやきとり弁当が買えるハセガワストア。中でもこの西桔梗店は、24時間営業で大型キャンプカーも駐車できる広い駐車場があり、席が空いていればお店の中でやきとり弁当を食べることもできる。



キャンピングカーステーション 北斗店

北海道北斗市七重浜5-3-1
TEL : 0138-48-0151
http://www.ccs-rv.com

広大なショールーム内には、パソコン、バスコン、トレーラーなどの新車・中古車が常時10台以上展示されている。レンタルキャンピングカーも扱っているため、気軽に北海道を旅してみたい人はぜひ利用してみよう！



北斗店スタッフの渡辺サン(右)と函館店の土井サン。

白石公園はこだてオートキャンプ場

(DATA)
北海道函館市白石町208
TEL : 0120 546145 (予約専用)
http://www.hakodate-jts-kosya.jp/camp

キャンプ場 3-4日目

我が家が以前プライベートでも訪れたことのある高規格キャンプ場。函館中心部からクルマで30分程度の場所にあるので、観光ベースとしても便利に利用できる。ちなみに今回使ったスタンダードカーサイトは、電源、水道、流し台付きで1泊5000円(開散期は2500円)。



スカイロープや木製アスレチックなどの遊具が充実しているのも、子供たちも大ハシヤギ！



キャンピングカーサイトには12mのロングな駐車場や電源、水道、流し台ダンブレーションが完備されている。



きくよ食堂

(DATA)
北海道函館市若松町11-15
TEL : 0138-22-3732 http://www.abs-plaza.com/kikuyo

函館到着後、函館朝市にある我が家のお気に入り「きくよ食堂」にて一発目の海鮮ランチ。海の幸がおいしいのもちろんのこと、蒸し釜戸を使って炭火で炊き上げたご飯が絶品なのだ！

左から時計まわりに、四種お好み丼(1980円)、三種お好み丼(1680円)、鮭親子丼(1180円)



恵山海浜公園

(DATA)
北海道函館市日ノ浜町 3-4日目 休憩



道の駅となわ・えさんに隣接する海辺の公園。道の駅で食事ができるほか、道路を挟んで向かい側にコンビニもあるので、休憩や仮眠にもピッタリだ。目の前が芝生のキャンプ場になっており、景色も解放感も抜群！

ラッキーピエロ



3-4日目 グルメ

(DATA)
ベイエリア本店をはじめ、函館周辺に全14店舗。所在地はHPにて要確認。
http://www.luckypirot.jp

函館に来た時には必ず一度は立ち寄る、お気に入りのハンバーガーショップ。独自のハンバーガーのラインナップをはじめ、パスタやカレーなどメニューも多彩で、しかもどれも食べてもおいしい！

麺厨房あじさい本店



3-4日目 グルメ

(DATA)
北海道函館市五稜郭町29-22
TEL : 0138-51-8373
http://www.ajisai.tv

函館名物の塩ラーメンを扱うお店の中で、我が家ももっともお気に入りなのがココ。味はもちろん、スタッフの細やかな接客も心地いい。写真は塩チャーシュー類(1050円)。



3-4日目 函館の夜景スポット！

元町

(DATA)
北海道函館市元町

洋風建築と石畳の坂道が多い元町周辺は、昼間も観光スポットとしてにぎわっているが、夜景の美しさもかなりのもの。坂道から函館港を望む光景は、日本とは思えないほど幻想的だ。



ベイエリア

(DATA)
北海道函館市末広町

赤レンガ倉庫が立ち並ぶベイエリアも、異国情緒漂う夜景を楽しめるスポット。周辺にはレストランやショップが多いので、食事や買い物しながら夜のベイエリアを散策してみよう！



函館山

(DATA)
北海道函館市元町19-7 TEL : 0138-23-3105 http://www.334.co.jp/jpn

ナポリ、香港と並んで世界三大夜景と評される、北海道を代表する観光名所。函館市街の街灯やクルマのライト、イカ釣り漁船の集魚灯が、宝石をちりばめたような美しい夜景を織り成している。海拔334mの山頂までは、函館山ロープウェイに乗っていかう(大人往復1160円、小学生往復590円)。

【楽しかった思い出を胸にフェリーで本州へ！】

東京までもう少し！



青森港でフェリーを降りてから、東北道をひたすら南下。途中のSAで食事休憩をとりながら、約8時間かけて自宅まで走り抜いた。これで今回の旅は終了。お疲れさまでした～！



往路同様に一等個室を確保したので、乗船前に買ったハセガワストアのやきとり弁当を広げてこの旅最後のランチタイム。



デッキに出て遠ざかる函館の街並みや大海原を眺める。フェリーの旅ならではの非日常感を味わえるひと時だ。



函館ターミナル内にはギフトショップや売店、食堂が完備されているので、早めに着いても時間を待たず余すことはない。



ターミナルの2階待合室にはキッズコーナーも設置されている。我が家のように小さな子供連れの家族にはうれしい限りだ。

アツという間に北海道の旅も終わり、函館港から津軽海峡フェリーで本州に帰る日がやってきた。北海道の思い出を振り返りながら、フェリーの船旅を満喫しよう！



函館ターミナル

お土産などの買い物を済ませて、出港1時間前にフェリーターミナルに到着。往路同様にカウンターで乗船手続きを済ませる。

快適な3時間40分のフェリーの旅を終えて、いよいよ函館に上陸を果たしたライター岩田ファミリー。早速、函館朝市で新鮮な海の幸を堪能してから、以前プライベートでも訪れたことのある「はこだてオートキャンプ場」にチェックイン。
ここを拠点にして、函館の主要観光スポットを巡り、短い日数ながらも思いっきり函館の魅力を満喫することができた。函館の観光スポットはどこへ行くにもたいていくクルマで30分以内の距離なので、タイトなスケジュールでも比較的楽に回れてしまうというのも魅力だ。
今回の旅は4泊5日という強行スケジュールだったが、それでも青森と函館の主要スポットを、十分余裕を持って楽しむことができた。交通費が節約できて、短い日程でも青森、函館の旅を楽しめる函館、青森航路は、キャンピングカーユーザーに絶対オススメ！
もちろん、日程に余裕があるなら、青森以外に若手や秋田も回ってみたり、北海道では函館から道央へと足を延ばしてみたりと、好みに合わせて旅のプランニングは自由自在だ。
さあ、今年の夏は、「津軽海峡フェリー」に乗って、北海道に行こう！